

すべての患者が満足する手術をめざし

一人ひとりの状態にあった

人工関節置換術をデザインする

医療生協さいたま

埼玉協同病院

先進医療レポート

人工関節治療に
実績ある病院



整形外科部長
仁平 高太郎

にへいこうたろう／昭和63年群馬大学卒業、同年慶応大学整形外科に入局する。平成9年フランス・パリ第5大学附属病院に留学し人工関節手術を学ぶ。慶応大学病院、川崎市立川崎病院、さいたま市立病院等に勤務後現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本リウマチ学会認定リウマチ専門医。



感染症を防ぐため細菌防御服を着用し、クリーンルームで実施する。

先進技術駆使し 適確な手術を実現

仁平整形外科部長は人工股関節置換術が専門領域である。2008年秋に着任後、埼玉協同病院の人工股関節の手術件数は大幅に増え、これまでに約1000件の手術を行った。

「手術を受けていただいた皆さんが満足する結果を出すのが、私のモットーです」と仁平整形外科部長は語る。

同病院では、人工股関節の適確な設置のため、全症例に対して術前にCT撮影を行い、そのデータをもとに3次元画

像でシミュレーションしてから手術に臨む。難しい症例に対しては、術中にナビゲーションシステムを使用し、術前に計画したとおりに手術が遂行されているかを確認しながら進める。さらに難症例の場合は、CT画像をもとに3Dプリンターで股関節の立体モデルを作製してシミュレーションを行う。この実物大の立体モデルを使う方法は、厚労省の定める先進医療となっているが、同病院では4年前からこれに取り組み、東大病院に次いで全国で2番目に認定を受けた。

「例えば、骨が欠損し通常の方法では人工股関節の設置が困難な場合は、事前に補強材を用意するなどの方法を考えるおかなければなりません。



難症例に対して3Dプリンターによる実物大の骨モデルを作成。術前計画を緻密に行う。

埼玉協同病院は、1978年の開院以来、地域に密着したハイレベルの医療を提供してきた。特に近年は、高齢社会の進展とともに要望の高い人工関節置換術に力を入れ、高い実績をあげている。全国から患者が集まるという仁平高太郎整形外科部長にお話をうかがう。

痛みの緩和に取り組み 独自の神経ブロック

人工膝関節も、特色ある手術を行っている。「膝関節の置換は、股関節にくらべ術後の痛みが強いのが特徴です。手術後の痛みを抑えるために始めたのが、神経ブロックという方法です。当院では大腿神経ブロックに加え、選択的脛骨神経ブロックを行っています。超音波エコーで痛みに関係する神経のみを探索し、そこにカテーテルを留置して神経ブロック麻酔薬を注入す



超音波で神経を確認し、鎮痛処置である神経ブロックを刺入する。術後の痛みを軽減。

るという方法を行っています。2つのブロックを組み合わせて、痛みだけを緩和し、筋力は温存されるのでリハビリもでき、早期の機能回復にも役立ちます。現在のところ、こうした取り組みをしている施設は全国でも少ないようです」(仁平整形外科部長)

また、同病院では、定期的に病院主催で手術を受けた患者の集まりも開催している。

「毎回200人くらいの参

加があり、同窓会のような和気藹々とした雰囲気です。私はそこで術後の生活について、みなさんからの質問に添えて話をさせてもらっています。この会は、患者さんにも評判が良いです」(仁平整形外科部長)

う。

手術を受けてよかったと思えるような病院をめざしたい」とい

人工関節手術実績

(2013年1月～12月)

膝関節	121件
股関節	234件
手術総数	355件

Hospital Data



医療生協さいたま
埼玉協同病院

埼玉県川口市木曽呂1317
TEL.048-296-4771
http://www.kyoudou-hp.com

診療科目／内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、緩和ケア内科、神経内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科、放射線科、麻酔科(黒羽根 明子)、リハビリテーション科、病理診断科、リウマチ科、臨床検査科、腎臓内科、血液内科、糖尿病内科、救急科、泌尿器科(人工透析)、緩和ケア科